



【巻頭言】

「働き方改革についての一考察」

本宮市立本宮小学校 佐久間 仁

「働き方改革（業務改善）について、学校（校長）としての考え方を示してほしい。」

これは、本校の教育課程編成会議の中で職員から出された意見（要望）の一つです。本校では、こうした意見を踏まえ、次のようなことを教職員間で共有し、業務改善を図ろうとしました。

- 日課表の見直し（清掃時間の削減による放課後の会議・打合せ、教材研究の時間の確保等）
- 時数配当の工夫（オンラインによる学習保証に基づく余剰時数の削減等）
- 行事の削減・見直し（テレビ放送による儀式的行事・表彰式の実施等）
- 会議の削減・見直し（時間や内容による会議の一本化、会議資料のペーパーレス化等）
- PTA組織の改編（広報誌・親子レク・バザーの廃止、メディア・カルチャー委員会の廃止等）
- その他（校務支援システム活用による事務の効率化、外部人材活用の推進等）

改善を進める上で、幾つかの問題がありました。まず日課表の見直しに伴い、手薄になった校舎内の清掃を誰が担うかです。またPTA組織の改編により、担い手がなくなった給食着点検・補修をどうするかです。さらに教員のニーズと外部の協力体制とのズレです。せっかく協力者が現れても、それを受け入れる学校側でその必要性を感じなければ、活動は停滞してしまいます。これらを解決する手段として今年度立ち上げた保護者ボランティアを活用しました。「校舎内清掃」「給食着点検・補修」のほかに「学習支援」などのチームに分かれて、「できる人が、できる時に、できることを」を合い言葉に、保護者の都合に合わせて無理なく活動してもらうことにしました。教員以外でもできる仕事を委ねることで、教員にもゆとりが生まれ、保護者もやりがいをもって生き生きと楽しそうに活動する姿を多く見ることができました。

ただ、本校の取組はどちらかと言うと、校長が方針を示して教職員がそれに従う、いわゆる「トップダウン型」の改善であり、教職員自らがアイディアを出し、自分自身の働き方を見つめる「ボトムアップ型」の改善にしなければ、真の改革にはならないのではと考えました。そこで、2学期末に行った教育課程反省の中で、教職員のアイディアによる業務改善案を示してもらいました。例えば、「参加コンクールの精選」「作品の評価、学習カードの工夫」「日課表（給食の片付け、下校等）、行事（避難・引き渡し訓練、体力テスト等）の見直し」などです。まずは3学期できるところから実践化を図り、その反省を次年度につなげ、さらにバージョンアップを目指すことを確認しました。

ところで、この度一部改訂となった「学校と教師の業務の3分類」では、名称が「①学校以外が担うべき業務」「②教師以外が積極的に参画すべき業務」「③教師の業務だが負担軽減を促進する業務」と変更され、①には「保護者等からの過剰な苦情や不当な要求等への対応」、②には「学校の広報資料・ウェブサイト等の作成・管理」「ICT機器・ネットワークの日常的な保守・管理」「学校プール・体育館等の施設・設備の開錠・施錠」などの項目が追加して示されました。ただ、②の業務を「教師以外」の誰に委ねるかという問題があります。また③の「業務負担軽減」についても、どれを、どの程度優先して負担軽減するべきかという問題があります。「学校（教員）が担うべき」「学校以外に委ねるべき（積極的に軽減すべき）」という考え方には幅があり、意見の相違も出ると思います。大切なのは、対話を通して自校の「働き方」の課題を見つめ、常にアップデートすることで、働きやすい環境をつくろうとする職場の雰囲気高めることではないでしょうか。

ふるさと あだたら

二本松市立安達太良小学校 菅野 芳弘

本校では、地域の恵まれた自然環境や社会環境を活かして「ふるさと学習」を核にした教育活動を展開し、「みんな笑顔で幸せな学校」を目指しています。その地域の特性を活かした本校のふるさと学習の実践を紹介いたします。

① ハロウィンカボチャペインティング

親子で岳温泉街各担当の場所に分かれ、大きなカボチャにペインティングをしました。個性豊かなカボチャで地域を盛り上げました。



② ニコニコキッズワーク



安達太良小版ミニキッズニアである職場体験活動です。岳温泉を中心とする地域企業・施設に協力していただき実施しました。足湯の清掃体験、ホテルのベッドメイキング、商品のチェック作業等の体験をしました。

③ 地域人材活用ゲストティーチャー

地域のために活動している方々をゲストティーチャーとして、ご講話をいただきました。安達太良山の自然保全活動やアウトドアアクティビティ事業、湯守等のお話をいただきました。

④ 大学生とのオンライン交流

総合的な学習の時間で調べたことを発表し、大学生からアドバイスをいただきました。大学の学習や生活について質問し、自分の将来を考える機会となりました。

地域について体験し、学び考えることで、地域郷土への愛着、誇りを育むことができると考えます。今後も、保護者や地域と連携し、地域と共にある学校を目指し、笑顔あふれる学校づくりに努力を続けて参りたいと思います。

子どもの夢を応援する学校

大玉村市大山小学校 澤藤 晃治

「今日も、夢にむかってがんばりましょう〜♪」放送委員会の児童の素敵な声が、毎朝、緑が映える校庭の芝生と伝統ある校舎に響き、一日が始まる学校、大玉村立大山小学校。学校目標の「めざせ！夢にむかってがんばる子」は、全校児童が自分事として捉えています。

夢は一人では叶えることはできません。夢を叶えるには、「多様な他者と協働すること」が必要です。本校ではコミュニティスクールの概念の基、驚くほど多くの方々に子どもたちの教育活動を支えていただいています。読み聞かせボランティア、預かりボランティア、ミシンボランティア、森の案内人（山林学習）、そば名人（そば植え、収穫、そして、そば打ち）、米作り名人（田んぼでの現地授業）、地域の商業施設のプロ（時にコラボ商品開発など）、海外にルーツをもつ方々（ALT以外）、税理士（租税教室）、警察関係（交通安全教室）、有志連合（学校の味方の何でも屋さん）などなど。自分一人ではできないことでも、多様な他者と協働し、自らの夢に一步步近づくため、その学びに邁進する児童たち。

そんな児童たちは、学びを進めれば進めるほど、自分たちを大切にしてくれる「大玉に誇り」をもち、その気持ちは「福島への誇り」となります。そして、それを将来も「持続可能」なものにしたいとの思いを自然と抱きます。それは、将来どこでどのような人生を送ったとしても、心の中で「故郷おおたまを生きる」ことを自覚し、「これからも故郷おおたまの繁栄を願う」気持ちとなって、全ての児童たちに根付いているように思います。152年の歴史を有する大山小学校。その系譜は、時代が変わっても脈々と受け継がれています。

本校の児童昇降口には、入学時の全校児童の「夢」が掲示されています。大人も子どもも、「今日も、夢にむかってがんばりましょう〜♪」

自然と向き合う最近の趣味

二本松市立岳下小学校 石川 勝佳

忙しい日々の合間、ふと立ち止まり、自分を見つめ直す時間の大切さを感じることがあります。私にとってその役割を果たしているのが、陸・海・空に関わるささやかな趣味です。自然と向き合うこれらの体験は、物事を考える時間や多くの気づきを私に与えてくれます。

陸では、チェーンソーや草刈り機を使った環境整備に取り組んでいます。黙々と体を動かす時間は、日々の喧騒から距離を置くひとときでもあり、体力作りにも役立っています。便利な道具だからこそ、危険性を十分に理解し、作業前の準備と安全確認を大切にしています。少しずつの積み重ねでも、やり終えた後の達成感を感じます。

海では、潮の流れや海風を体感する船釣りで。なかなか出かけられないのが実状ですが、大きな魚の重みを受け止めながら引き上げる瞬間は、自然の力強さを感じます。また、大きな魚を捌く際には、包丁を入れる位置や力加減を考え、骨や身の流れを確かめながら、一手一手を慎重に進める必要があります。命をいただくことの重みと、物事に丁寧に向き合う大切さを改めて感じています。

空では、ドローンの操縦を最近始めました。上空から撮影した映像を見ると、全体を俯瞰することで、地上では気付かなかった状況や課題に気付きます。視点を変えて見たり考えたりすることの大切さを、実感をもって学んでいます。今後は、大型のドローンを操縦できる国家資格を取りたいと思っています。

陸・海・空、それぞれの体験を通して得た学びを、これからの学校経営や子どもたちとの関わりに生かしていきたいと考えています。



(ヒラメ75cm)

なくてもいい、でも、 あったらちょっとだけいい

二本松市杉田小学校 齋藤みちる

私は幼い頃から絵を描くのが苦手で、お絵かきや教科書の片隅のいたずら書きには全く興味なし。でも、文字を書くことが大好き。3つ上の姉の書道塾通いを見て、幼稚園生だった私はわがまを言い書道塾に行かせてもらったほど。でも残念ながらまもなくその書道塾はなくなり、文字のいたずら書きをするしかなく、暇を潰していました。

高校1年の春、「部活はやらないから、書道塾に行かせて！」とまたしてもわがまを言い、私の書道ライフが始まりました。でも、就職、結婚、さらに3人の子育てで余裕がなくなり、筆を持たない日々が続きました。そんな時、「時間は作るもんだ。このままでは上達しないぞ。」という先輩の言葉。ならばと始めたのが、「学級の子どもたちのために書く」ということでした。書きぞめの手本を一人ずつ氏名も入れて書く、賞状の氏名書き、一日一枚格言や生きるためのルールを書いては黒板に貼り、子どもたちに語りかける、教科書に出ている古典文学を書いて掲示する・・・それは私にとって筆をもつ口実でもあり、また喜びでもありました。印刷した文字ではなく、私が書いた手書きの毛筆の文字から、私の心が伝わっていく、私が文字を書く喜んでくれる人がいる！そんな感覚を味わってしまったのです。

今は校内に季節を感じる書や様々な言葉を飾ったり、学期の始めには先生方にメッセージを贈ったりしています。なくてもいい、でも、あったらちょっとだけ嬉しくなる、そんなさりげない書が書けたらと思っています。3人の我が子が家から離れ、ようやく静かに筆を持つ時間が増え、また一番下の級から学び直しをしています。私を癒やしてくれる猫のこてつと闘いながら。



自然体験のすすめ

二本松市石井小学校 中丸 徹

趣味と言うほどではありませんが、登山にはまった時がありました。きっかけは、子供の学年行事で磐梯山に登ったことです。山頂から見える山々や猪苗代湖に魅了されました。毎日見上げている山に登ったうれしさもありました。その後、毎年のように登り、磐梯山には10回以上登りました。磐梯山以外には、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、一切経山、安達太良山など、県内の山を中心に登りました。近頃は、けがと熊が怖くて登っていません。

以前、県教委が発行する「教育福島」の巻頭言に田部井淳子さんの寄稿が載りました。そこにはとても厳しい内容が書かれていたそうです。田部井さんは高校教師を目指し教育実習も無事に終えましたが、教員採用試験を受けませんでした。「こんな未熟な自分が人に教える立場に立っていいのか」と真剣に悩まれたそうです。そして、教員に対する辛辣な言葉が並びました。「教員は一国一城の主と同じように怖いものはない。自分の言ったことが正しいものとして通用してしまう。」「管理職は、自分の在職中はつつがなく過ごせることを願い、事なかれ主義を貫いている。」「個性を伸ばすと異口同音に唱えながら、校長は教師を、教師は生徒を画一的に管理している。」教員に対する厳しい言葉はまだ続きますが、田部井さんは最後に自然体験の尊さを訴えています。「自分の命を守る真の『生きる力』は自然の中でこそ誕生する」と。

田部井さんは、人を導く教師は、多くのことを体験し学ばなければいけないことを教えてくださいました。

雪が溶けたらまた近くの山に登りたいと思います。



安達太良山山頂

絶対に勝てない相手はいない

二本松市立渋川小学校 石川 淳

父親の影響からか、物心がついた頃からずっとプロレスや相撲を観て育ってきた。

リングと土俵。あの狭い空間の中で、多彩な技を繰り出しながら戦う姿。かたやリングを縦横無尽に駆け回り、空中技や関節技の応酬で技を出し合い、最後、必殺技で勝負を決める。かたや土俵では、勝負前の駆け引きから、一瞬のひらめきで勝負の流れをつくり、瞬時に勝負が決まる。繰り広げられる戦いに自分を同化させながら、時に「うっ」と拳に力を込め、時に「おっ」「あー」と勝負の行方に一喜一憂する。熱狂と興奮のひとつときは至福の時間となっている。

最近では、断然、相撲が面白い。

群雄割拠。どの力士も魅力的で、どの力士も強い。互いが自分の強みを生かし、一瞬の閃き・判断で勝負を決める。しのぎを削り、強い者が勝ち上がる下克上の世界。特に小兵力士の活躍はめざましく、体格差をものともせず、土俵際の応酬では、土俵を割る最後の最後ギリギリのところまで勝負に徹し、時に見事な逆転劇で大きな相手をねじ伏せる。

郷土出身力士の活躍もまた、今、相撲を観る楽しみの1つになっている。美しい所作に、まず魅了されるが、相撲も綺麗だ。観ていて惚れ惚れする。大きな相手にも物怖じせず、正々堂々、真っ向勝負を挑む。低い姿勢で当たり、磨き抜かれた体幹で相手を受け止め、乾坤一擲。

インタビューでの「まだまだ」「一番一番」「自分らしい相撲を」という謙虚な姿勢も実に清々しい。

厳しい勝負の世界であって、日頃からの戦える体づくりと鍛錬。ここ一番でも動じない強靱なメンタルと入念なセルフケア。

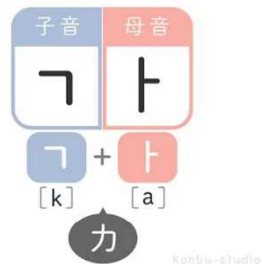
新年の新聞のインタビューには力士の「絶対に勝てない相手はいない」という言葉が載っていた。

教育界もなかなか厳しいが、これから先、乗り切る勇気と心の支えをもらったような気がする。

好きが高じて…

二本松市川崎小学校 菅野 桃子

あれは忘れもしない2005年のお正月のことでした。冬のソナタブームから3年。「韓国でものすごく流行ったドラマがCSで放送になる」と耳にした私は、冬休みの気楽さもあり、「どれどれどんなものだか見てみよう」と思い視聴しました。回を重ねるうちに、「この俳優さんの声で何を言っているのかを知りたい!」という思いがムクムクと湧き出てきて、ハングルを独学で学び始めました。あの当時は、人生でこんなに集中して勉強したことはないというくらいのもり込み、仕事の傍らではありましたが、受験勉強の比ではないくらい本気で取り組みました。NHKの講座のテキストを購読し、欠かさず番組を見て、辞書や書籍を購入し、韓国のテレビ番組を見て、新大久保に行ってグッズを買うなど、今から思えば、よくやっていたなあと自分でも感心します。おかげで文字が読めるようになり、ドラマの台詞の雰囲気はわかるようになりました。もし「第一外国語は何ですか?」と聞かれたら「韓国語です」と答えるかもしれません。英語と違って語順が日本語と同じで漢字由来の言葉がたくさんあることから日本人には学びやすい言語であることは間違いありません。「算数」は「サンス」「新聞」は「シンムン」と発音します。○と棒の組み合わせであるハングル文字も日本語でいう五十音表を覚えてしまえば、あとはローマ字のように母音と子音を組み合わせれば簡単に解読できます。興味がある方がいらっしゃれば、ぜひお話ししましょう。あれから20年…この力を仕事で生かしたことは一度しかありませんが、いつかどこかで生かしたらいいなあと思っています。また、この経験をもとに「何かに夢中になれることって素晴らしい」ということを子どもたちにも伝えていきたいと思っています。



旅立ちのときに

本宮市立本宮まゆみ小学校 伊藤 比呂美

2年前の10月、市の駅伝大会が雨天で中止になり、その翌週末の金曜日の放課後に、急遽、校庭や校舎周辺の歩道を使って校内駅伝記録会を実施しました。急な実施にもかかわらず、応援に駆けつけた保護者も多く、閉会式では校長の私から児童への労いと、保護者への御礼を伝えなくてはと強く思っていました。

その最中、父の施設にいる弟から学校に電話があり、父が危ないと、今夜もたないかもしれないと言われました。施設では、家族は夕方5時までに入らないと、その後、夜間から朝まで施設に入ることのできないルールでした。

校長の私は、ここで校内駅伝記録会を投げ出して施設に面会に行くか、父が朝まで頑張ることに懸けて記録会を全うするかを選択に迫られ、私は後者を選びました。

その後、私の願いは叶わず、朝方3時に弟から電話があり、「父は、今旅立ちました。」と震える声で言われました。

私は、父との別れより仕事を選んでしまったことになります。しかし、父は、なりたかった教員への夢を家庭の事情であきらめ私に託したこと、私が教頭になった時には「親孝行だぞ」ととても喜んでくれたこと、私は約10年間「父が亡くなったら、私は何を後悔するのだろうか」と自問自答しながら介護してきたこと、そして、何より父は、校長の私が記録会を投げ出して来ることを望むだろうかと、いろいろな思いがめぐりました。

ただ、施設のベッドで、呼吸が徐々に浅くなって消えかけていく父に、弟が「今夜は、僕が付いているからね。」と声をかけると、言葉はなかったけれど父は微笑んで、それが最後の意思表示だったと聞いて、私は後悔してしまうのでした。

朝降りてくる神様には気をつけろ

二本松市立新殿小学校 國馬 光夫

教諭時代のことです。研究授業で私は国語科を見ていただくことが殆どでした。前日の夜から朝にかけては、いつも眠りが浅く、目覚めると目の周りがぼうっと火照る感覚でした。そして、多くの方がそうするように、身支度をしながら授業の流れをイメージするのが常でした。

すると、決まってそのタイミングで、その神様は私の頭の中に降りてくるのです。「今日の発問は、〇〇ではなく、△△」。私はその「△△」で授業の流れをイメージし直します。イメージの中では「〇ページの〇行目に□□って書いてあるよ。だから…」「ここには、▽▽って書いてある」。着目してほしい叙述を列挙しながら読みを深める子どもしか出てきません。(これでいい！！)



いざ、授業。結果はいつも通り。彷徨う子どもたち。補助発問に補助発問を重ねる私…。

抜け殻になった体で臨む事後研。事前研に参加していた先生から「どうして最初の〇〇の発問から△△に変えたんですか？〇〇のほうがよかったんじゃないですか？」。空しい説明（言い訳）の後、「それ、いつ考えたんですか？まさか、また朝ですか？だからいつも言ってるじゃないですか、先生の『朝の神様』はダメですって」。

今、来年度の教育課程編成を行っています。新任校長として、初めて「学校経営の方針」を提示しました。子どもたち、先生方、保護者や地域の方々を彷徨わせるわけにはいきません。令和10年度の統合に向け、どんな学校にするのか、子どもたちにどんな力を付けていくのか、保護者や地域の力をどう生かすのか。多くの校長先生方の話を聞き、自問自答を繰り返し、目指す児童の姿は明確になりました。教頭先生とも話し合いました。

あとは、朝の神様に惑わされないことです。

「地域とともにある学校」をめざして

本宮市立糠沢小学校 豊島美喜子

糠沢小学校は、自然豊かな旧白沢村に位置しています。春には校舎前の桜が満開となり、新しいスタートを学校全体が歓迎してくれているように感じられます。子どもたちは学年を超えて仲がよく、校庭ではボール遊びや鬼ごっこなど、元気に遊ぶ姿が見られます。糠沢小の子どもたちの素直さや仲のよさは、この小学校が地域と深く結びついているからこそ育まれているものだと思っています。

4月に行われる「糠沢地区連合大運動会」は、学校・PTA・交通安全協会・交通安全母の会・消防団が協力して運営しています。今年度は開会前の入場行進にも消防団や交通安全協会の皆さんが参加してくださいました。消防団の皆さんと子どもたちが一緒に取り組む種目もあり、応援も含めて大いに盛り上がります。私がこれまで経験してきた運動会は、運動面や態度面の成長を見ていただく意識が強いものでしたが、糠沢小学校の運動会は、子どもたちだけでなく保護者も地域の皆さんも自然と笑顔になるものでした。

新任校長として赴任した当初、「校長としてのリーダーシップを大切に」と、自分の考え＝リーダーシップをはき違えていた部分もありましたが、地域の力強さに触れ、自分の世界の狭さに気づかされました。これからの社会では、個人を大切にする一方で、地域や人との関わりが希薄になることが懸念されます。学校は、一人では学べないことを、子どもたち同士、そして保護者や地域の皆さんの協力を得ながら学んでいく場所であると改めて感じています。

そして私は、糠沢のすばらしい環境を生かし、これからも保護者や地域の皆さまと力を合わせながら、「地域とともにある学校」をさらに発展させていきたいと考えています。子どもたちの笑顔と未来を守るため、学校の舵取りを担う者として責任をもって取り組んでまいります。



